

2010 年度・研究旅行制度 【個人旅行】

名 前	田中大喜	研究テーマ	イタリア映画を巡る旅～初期無声映画を中心に
目的地	国 名	地域・都市名	
	イタリア	ローマ, ボローニャ, ミラノ, トリノ	

研究旅行の目的

イタリア映画史において 1910 年代～1920 年代の初期無声映画は、重要な位置にあるにも関わらず、日本ではそのほとんどが、劇場公開されておらず、ビデオ化もされていない、そして、専門的な文献も出版されていないという状況にある。今回の旅は、イタリアの三つの地域のシネマテーク(フィルム・ライブラリー)とチネチッタ、及び国立映画博物館を巡り保管されている初期無声映画を見ることによって、現在に至るまでのイタリア映画の流れを総合的に理解すると共に、展示されている、文献や保管資料から知識を得ることを目的としている。

さらに、前映画時代の映像機器や、プリント写真を鑑賞し、イタリア映画が形づくられるまでに、どのような過程があったのかを学ぶことも重要な目的である。

期待される成果

実際に映画を見ることにより、文字資料では得ることのできない情報を入手し、なぜ初期無声映画時代が、イタリア映画史において最盛と言われるのかを理解し、その時代を築くまでに、どのような過程があったのかを前映画時代の資料から学びとることができる。さらに、その後の日本では手に入れることのできない、喜劇映画やネオレアリズモ映画を見ることで、イタリア映画史について細部に至る知識を得ることができる。

研究旅行日程表

旅行期間：2011 年 3 月 3 日 ～ 3 月 17 日 [14 日間]

	滞在地	行 動
第 1 日目 3 月 4 日	ローマ	ローマ国立シネマテーク訪問 Carlo Lizzani に関する写真及び「Lo svitato」鑑賞
第 2 日目 3 月 5 日	ローマ	ローマ郊外の Cinecitta 及び Cinecitta due へ Cinecitta には入場できなかったが、Cinecitta due において行われていた「I set di Fellini」特別展を職員の解説のもと鑑賞。Labirinto Fellini という研究紀要を入手。
第 3 日目	ローマ	ローマ市内の Centre Saint Louis de France というメディアテーク

3月 6日		へ。生前のインタビュー映像、Ettore Scora 等の映画監督や専門家・批評家たちのコメント等で構成された Mario Monicelli 追悼番組を鑑賞。
第4日目 3月 7日	ボローニャ	ボローニャへ。ボローニャ市立シネマテークな上映施設において「I lunedì di officinema Laboratori e incontri con il Cinema Italiano」というドキュメンタリーを鑑賞し、職員の解説を受ける。
第5日目 3月 8日	ボローニャ	チネテカ。Guido Burignone「Meciste all'inferno」Francesca Bertini「Assunta Supina」鑑賞。付属の映画館チネマ・リュミエールにてフェリーニの「アマルコルド」鑑賞
第6日目 3月 9日	ボローニャ	チネテカ。Vicenzo Denizot、Rmano Luigi Borgnetto「Maciste L'uomo forte」Baldassarre Negroni、Gustavo Serena「La signora delle camelie」鑑賞。
第7日目 3月 10日	ボローニャ	チネテカ。Giovanni Pastrone「Cabiria」鑑賞。Stefano Masi 著 Gabriele D'Annunzio に関する専門書「la memoria del SET」を読む。研究紀要「Cento anni fa」を入手。
第8日目 3月 11日	ミラノ	ミラノへ。イタリアシネマテーク付属上映施設において第67回ヴェネツィア国際映画祭出展作品「Se hai una montagna di neve, tienila all'ombra」に関するドキュメンタリーを鑑賞。
第9日目 3月 12日	ミラノ	イタリアシネマテークの資料保存場所である Museo del cinema が休館中だったため再び上映施設へ。Albert Austin「MY BOY」鑑賞。
第10日目 3月 13日	ミラノ	国立レオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術博物館へ。実物の映写機、カメラを前に、その発展の歴史を学ぶ。
第11日目 3月 14日	トリノ	トリノへ移動。
第12日目 3月 15日	トリノ	モーレ・アントネリアーナ内のトリノ国立映画博物へ。映画が誕生するまでの歴史。ファンタスマゴリア等の様々な映写機。1890年代の実験映像や1900年代のリュミエール兄弟を始めとする初期映画を鑑賞。
第13日目 3月 16日	トリノ	国立映画博物。「Tigre reale」等、職員により編集された重要な1910年代のイタリア映画の作品群、当時のポスターやセットの写真を学芸員の解説のもと鑑賞。「Voci del silenzio」「Cabiria & Cabiria」等の研究紀要、国立映画博物館に関する本を購入。
第14日目 3月 17日	トリノ	トリノ発。

*その他、研究資料として以下のものを購入できた：

- Gian Piero Burunetta, *Il Cinema muto Italiano*.
- CINE CULT (ed.), *MEDIANE Libri Pier Paolo Pasolini*.
- *Diva italiana* (写真集)



【写真1】 ボローニャ、シネマテーク

向って左側にはシネマ・リュミエールという上映施設があり、二つの上映室にはそれぞれ「マストロヤンニ」「スコセッシ」という名前が付けられている。左側は図書館になっている。その他研究員専用の建物もある。



【写真2】 トリノ国立映画博物館

非常に巨大な施設で、歴代の映写機により至る所で映写が行われている